

■東電本社を訪問し、福島第一原発の視察を要望しました

9月14日（金）、伊藤邦夫東大名誉教授以下、福島原発行動隊の7名が東京電力本社を訪れ、福島第一原子力発電所の視察に関する要望書を手渡しました。東電側からは原子力・立地業務部長の高瀬賢三氏が応対し、約50分間にわたって面談しました。以下、その主要なやりとりをご紹介します。

●福島第一原子力発電所の視察について

高瀬：ご視察の方をご案内することは現地の技術系の社員に負担をかけることとなりますので、現場の作業最優先ということで国会議員などからお申し込みがあっても基本的にはお断りしている状態です。

SVDF：そうした案内係をわれわれが引き受けるということはあるんじゃないですか（笑）。

高瀬：尾瀬などとは違って、私どもの案内には専門家を配置しないとイケないという実態がございますので、そこをちょっと肩代わりというのもですね…。

SVCF：そりゃあ勉強しますよ（笑）。行動隊員はそれぞれ専門があるんですから。それこそ研修をやっていたければ。

SVCF：素人が行きたいというお願いをしているわけではなく、退役しているとはいえ技術者たちがいますので、ぜひとも上の方に諮っていただくなどして対応していただけないのでしょうか。

高瀬：今日ご要望いただきましたのでこれは承ります。

●福島第一原子力発電所内での作業について

SVCF：私どもの団体は国から公益社団法人の認定を得ています。若い人に代わってシニアが被曝を引き受けるということで支援者も増えています。賛助会員が1600人以上、行動隊員が700人近くいます。ただ全員が高度な技術者ではなくて、8割位は技能者です。だからどんな簡単な作業でもいい。国の一大事だから関与させていただきたいと集まっているのです。

高瀬：敷地の中の線量はやはり高い状態で、全面マスクなどの装備をして作業をするという状態です。この夏であれば去年よりも暑い状態の中で作業しますので、そ

いうところで皆さんを作業させるのはきついのではないかと考えているのですが。

SVCF：われわれは志願しているんですから（笑）。

高瀬：まあ、いずれにしてもどういうお仕事がありうるのかということ、じゃあ、もう一度…。

SVCF：そうですね、検討いただきたい。

SVCF：敷地内に社会貢献をする団体を入れることによって、社会全体の目も変わってくる気がするんですね。行動隊を中に入れないのは、何か見せたくない隠し事があるからだとかネットで批判する人もいますし。だからそういう批判に対しての回答にもなると思うんですよ。見せられないところは見せられないでしょうが、「お手伝いいただける箇所はお手伝いいただいている」という形を取られるほうがいいかなと。

高瀬：はい、おっしゃっていただいていること私どもにとってはたいへんありがたい話だとは思っています。ですが、核物質保護という指定がありまして、本来あそこはやたらに出入りしてはいけない所でもあるんですね。警察も非常に神経を波立たせるような状況でございまして、ご視察とかは必要最小限のところにとどめなきゃいけないという面もございまして。

SVCF：若い人の被曝量を少なくしたいという思いから年配者でもできる作業を私たちはぜひやりたいなと思っています。確かに、健康面でご心配をいただいています。ただぜんぜんやっていないわけですから、一度試してやってみたらどうかと思うんですけどね。

高瀬：それは申し訳ないですけども、私どものほうでご判断させていただければと思います。ローテーションを組みながら人が足りているかと言われれば足りている状態で、東電の社員にしても請負会社さんにしても毎月お互いに確認をして、将来的にも線量をどれくらいの範囲内でこなしていけるかというふうなことも相談をして仕事をしています。

SVCF：東電さんとしては、20年、30年たっても労働力についてはそんなに心配していないのですね。

高瀬：いま原子力の要員が社内に何千人いるんですけども、線量を管理しながら中長期にどう回していける



福島原発行動隊隊員の伊藤邦夫東大名誉教授が要望書を東京電力の高瀬賢三原子力・立地業務部長に手渡しました



要望書を読み上げる篠田えみこ行動隊員



高瀬賢三氏（東電原子力・立地業務部長）



高瀬部長の説明を聞く伊藤名誉教授（右）と同行の行動隊員

かというシミュレーションは一応やっております。請負さんともご相談して、まあやっつけていけるだろうということをご回答いただいたなかで、日々、毎月、毎年といった感じでお互いに確認しているということなので、それを継続していけば何とかなるんじゃないかなという感触は得ています。

●放射線測定要員育成研修について

SVCF：それともう一点。昨年10月までJビレッジでやったJAEA主催の放射線測定要員育成研修に今年度も派遣したいんですけど。

高瀬：昨年一回参加されたんですよね。

SVCF：全部で25名ほど受講しています。

高瀬：ああ、そうですか。その後は途切れてしまっているんですか。

SVCF：ええ、途切れているんですよ。中長期ロードマップにも研修はやると書いてありましたから、今年もやると思うんです。

高瀬：それは私も聞いていないので、どういう枠組みに今年なっているのかを確認してみます。

SVCF：また次の次の金曜日にこちらにお伺いしたいので、今日の申し入れの受け入れと、育成研修の件についてご回答いただければと思います。できたら文書にしていただくとありがたいんですが、

高瀬：わかりました。検討いたします。

■福島・川内村と覚書を交わしました

福島原発行動隊はかねてより川内村当局に対して「帰村住民への支援活動」について申し入れをしてきました。住民が帰村するにあたり、当法人として具体的に川内村帰還事業を支援したいとの申し入れです。

数度にわたる折衝の結果、この度9月14日付で覚書を締結しました。覚書の要旨は次の通りです。

1. 支援業務

- ・家屋内の清掃・整理
- ・モニタリング
- ・除染（方法を協議の上）
- ・その他帰還住民の希望事項

2. 申し合わせ事項

- ・無償ボランティア活動
- ・申込受付窓口は住民課
- ・住民同意に基づくこと
- ・個人情報保護厳守
- ・トラブルなどの報告義務

3. 支援業務終了期間

・2014（平成26）年3月31日まで

なお本覚書の全文を行動隊のウェブサイト近日中に掲載する予定です。今後は覚書に沿い、川内村において支援活動を積極的に展開してまいります。併せて、隣接の福島原発事故被災自治体へ同様な覚書を結ぶべく折衝していきます。



川内村の遠藤雄幸村長（右）と塩谷巨弘副理事長（7月9日 村長室）

■山田理事長と語り合おう

山田理事長が全国各地の行動隊員・賛助会員の皆さんなどと膝を交えて語り合う地域交流会を開催します。まずは東北、北海道から始めます。

現在の行動隊を取り巻く状況、行動隊への思い、私たちの次の一歩などについてじっくり語り合います。一般の方のご参加も歓迎します。

●**仙台** 10月6日（土） 12時から みやぎ乃（仙台駅ビルエスパル地下1F 022-267-4087）「福島原発行動隊」名で予約しています。

●**盛岡** 10月6日（土） 18時から パシフィックホテル盛岡（019-625-3000 盛岡市中央通り1-13-55）（ロビー集合。山田が「SVCF」と書いた紙を持っています。）

●**郡山** 10月7日（日） 12時から 場所未定（参加ご希望の方は行動隊事務局の篠田までお問い合わせください。）

●**室蘭** 10月8日（祝日） 14時から 室蘭市市民会館2F 中会議室（0143-44-1113 室蘭市輪西町2-5-1）

■福島原発行動隊のゼッケンを作りました

川内村帰村支援活動の作業などで、集団の規律ある行動が美しく映えるように、そして、隊員の気持ちが一つに纏まるようにと考えて作成しました。

川内村の帰村支援活動が初めての作業になることから、川内村の平伏沼のモリアオガエルをイメージしました。これからもさまざまな行動に活用していきます。



■原発ウォッチャー月例報告（2012年8月分）

項目	内容	所見
原子炉の冷却	外気温度による冷却水の温度上昇を防ぐために7/18から冷凍機を稼働させた。しかしながら注水量の減少により格納容器内温度が上昇気味	配管内の異物（金属のさびなど）によるフィルタ詰りが発生しており、注視を要する。注水量減少の理由は不明
滞留水	地下水バイパスの試験を開始しているが、未だ増加が続いている。約39.4万m ³ までの総容量を計画しているが、そのうち5.8万m ³ を地下貯水槽で計画（増設5.4万m ³ ）している	地下貯水槽はベントナイトと二重のポリエチレンシートによる遮水。地震による地盤変形に耐えるか疑問
海底土	港湾内の海底土を被覆して海水の汚染を防止	港湾内の浚渫による海洋再汚染対策の記述なし
使用済燃料取り出し	4号機建屋最上部撤去完了。建屋の補強完了。3号機建屋最上部撤去中、H24年度未完了予定。1・2号機は未着手	放射能汚染の低い4・3号機から着手している。1・2号機についての方策は今後の課題